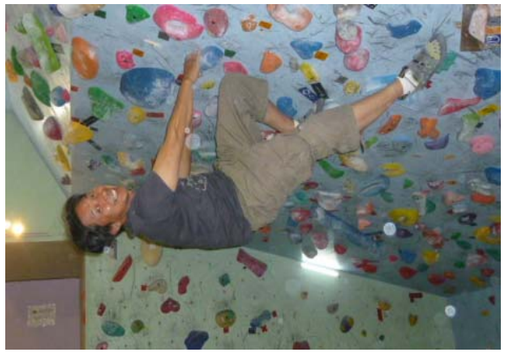
奥三河の岩場にかじり付け！！

みんなで見直す岩場の価値

ジムの１６５度の壁を登る理事長の徳枡さん



～新城ＤＯＳクライミングクラブ～　徳枡達尚さん

手を出したことのないアウトドアスポーツの方が少ないのではないか。そんな豊富なアウトドア経験と知識を持つ新城市出身の徳枡さん（通称トクさん）。そのトクさんが現在思い描いているのが、フリークライミングを通じた地域の活性化です。

実は、新城市には「鳳来の岩場」というクライマーから注目を集める全国有数のクライミングエリアがあるのです。

トクさんは、その鳳来のお膝元の新城市で、クライミングジム「ボルダ１０９」を経営しながら、NPO 法人を立ち上げ、地元の方々と一緒に岩場の価値を見直し、資源として活用していこうという活動を行っていらっしゃいます。

※ジムやＮＰＯの活動情報の詳細は下記をご覧ください

http://www.sdcc109.com/

訪問日：平成 25 年 9 月 30 日（月）

取材者：県民安全防災課　網野

フリークライミングとは何ですか？

フリークライミングとは、自分の手足と、安全確保のための最低限の道具だけを使って岩を登る実にシンプルなスポーツです。１８０度近い傾斜の壁や、傾斜が緩くても手がかり足がかりがほとんどないようなツルツルの岩も、手足だけで登ります。より難しいルートを登ることやそのために必要な技術・パワー・集中力を身につけることが問題なんです。加えて、難易度をある程度数値化できるので、スポーツとして発展してきています。

では、ボルダリングって何なのでしょうか。ジムはボルダリングのジムですよね。

フリークライミングの中に二種類のクライミングがあります。一つは、20ｍや 30 ｍの長さの壁をロープを使って登るもので、リードクライミングとか呼びます。もう一つが、高さ３ｍから５ｍくらいの岩（ボルダーという）をロープを使わずに登るもので、これをボルダリングといいます。もちろん、下にはマットを敷いたりして、落ちた場合の安全を確保します。さらに、フリークライミングには、屋外の自然の岩を登るものと、ジムなどの室内で人口壁を登るものとがあります。うちは、ボルダリングのジムなわけですね。

そんなフリークライミングの楽しみってどんなところにありますか。

ん～、難しい質問ですね。やってみればわかるって言っちゃ元も子もないですが。

（ちょうどこの時、女性クライマーが目標の課題を登れたようで、「よっしゃ～!!」と大きな声でガッツポーズ。）

あ、あんな感じ。苦労して登れると「やった～」と思えるからでしょうね。

135 度の壁を登るジムの常連さんたち

屋外の自然の岩を登る楽しみと、クライミングジムの人口壁を登る楽しみと、それぞれ教えてください。

ボルダリングの話をすれば、外の方がとにかくスケールが大きいよね。登りきった後は、その岩の上に立つのが気持ちいい。

ジムでは、みんなでワイワイにぎやかに同じ課題を登るのが楽しいね。こんな登り方がある、あんな登り方があるって、みんなで考えながら。

「ボルダ１０９」というジムを運営していらっしゃるわけですが、その成り立ちを教えてください？

もともと僕は、バイクのトライアル、を始め、アウトドアスポーツはいろいろやっていました。バイクをやっていた時は、クライミングには興味がなかった（笑）。たまたま、ある高校の学園祭で、探検部が持っている人工壁に登ったら、はまってしまった。息子もはまった。その後、自宅の空いたスペースに人工壁を作ることにしました。それが７～８年前。最初は１１０度の壁しかなかったのだけど、友人の大工さんに手伝ってもらったりして１２５度の壁も作った。この時はまだ、仲間内で格安で使っていました。２年前にＮＰＯ法人になった時に、１００度、１３５度、１６５度の壁も作って、去年の２月から営業ジムとしてスタートして、今の姿になっています。

なぜ、ＮＰＯ法人になったのでしょうか。クライミングジムでＮＰＯ法人というのは、全国的にも珍しいケースのように思いますが。

一つの理由は、利用料を低く抑えることで、いろんな人がクライミングを体験して、その楽しさ知ってもらうための敷居を低くしたかったから。手を出しにくい料金設定にしてしまうと、特に奥三河は過疎化とかで若者が少ないから、多くの人が登りに来るのを期待できなくなってしまう。それに、はじめてクライミングに挑戦しようという人も近づきにくい。それだと、クライミングの楽しさをいろんな人に伝えることが難しくなっちゃう。で、ＮＰＯ法人であれば、助成金を活用して、利用料を安く抑えられる。

より多くの人にクライミングの楽しさを知ってほしい、と言うのは、多くのクライマーが持つ共通した願いだと思いますが、このＮＰＯ法人では特別な理由があるのでしょうか。

新城市内には鳳来の岩場という日本を代表するような、クライミングエリアがあります。今後、新東名高速とか、三遠南信道ができれば日本中から多くのクライマーがやってくる。岩場を地域の資源として捉えれば、これは地元にとってチャンスです。でも、地元では、クライミングの知名度が低かったり、鳳来の岩場が日本を代表する岩場だってことが知られていなかったりして、チャンスと思われていない。その状況ですでに地元のキャパを越えて多くのクライマーが押し寄せているので、岩場の麓の駐車場問題とか、山中でのトイレの問題とかが生じてしまう。だから、まずはクライミングそのものを地元の人に知ってもらいたいし、鳳来の岩場がすごい岩場なんだって知ってもらいたい。そうすれば、地元の意識も変わっていって、岩場の価値を見直していくことができるはず。

「鳳来の岩場」のクライマー

意識を変えて、価値を見直していくというのは、大変なお仕事ですね。

そうですね。たとえば、今度の 11 月に、鳳来の岩場周辺で、清掃登山をします。これは、鳳来の岩場を守ろうとしてきたクライマーが昔から参加してきたイベントで、クライマーが積極的に地元の人と交流することで、お互いに信頼関係を作るきっかけになると思っています。

なるほど、時間をかけて地元の方々と信頼関係を築いて、鳳来が素晴らしい岩場なんだという認識を共有しようと日々努力されているわけですね。

最後に一言。

とにかく一回クライミングをしてみてほしいと思います。自分もそうだったけれど、初めは全然興味がなかった。それが一度やってみたらはまり込んでしまって、今に至っています。

トクさんの人柄のためか、ジムはとてもアットホームな雰囲気に包まれていました。ジムの常連さん達もとてもフレンドリー。子供もたくさん来ます。壁に登ることそのものの楽しさに加えて、仲間と一緒に登る楽しさも味わえる、そんな場所です。一人でも多くクライミングの楽しさとクライミングがもたらす価値を共有できる人たちが増えて、より奥三河を味わえる環境が整うことを願っています。クライミングの楽しさを経験した子ども達がいるので、将来は心強いですね。